

# 一般質問

12月定例会



内藤 真一 議員

## Q 飯南和牛を全共へ

平成29年宮城県で開催された「全国和牛能力共進会」には、町内から1頭も出品できなかった。次回の「鹿児島全共」には必ず出品し、優秀な成績を収める必要がある。  
現在、町では、年間200万円の予算で、1件あたり最大20万円を補助しているが、現在の子牛の市場価格からみると低い。本当に良い子牛が残せるか心配である。



中山間地域研究センターの飼育牛

「宮城全共」で優秀な成績を収めた鳥取県伯耆(ほうき)町の支援状況を調査したところ、きめ細かい支援が行われ、肥育に至るまで配慮されていた。この成績に至るまでには、10年の月日が必要だったと聞いた。  
そこで、本町においても10年後を見据えて、島根県が推奨する「久茂福(ひさしげふく)系の子牛の保留を促し、飯南町和牛の価値を高めていく努力が必要だ。



県共進会グランドチャンピオン受賞牛

## A 飼育技術の確立を

町長 山崎 英樹

畜産支援には、雲南農業振興協議会を通じたものを含め、できる限りの支援をしてきたと自負している。現実的で具体的な提案を頂いたと思う。  
引き続き受精卵移植等を推進するとともに、「久茂福」系統牛の資質向上のため、飼育技術の確立が重要と考えている。

# 一般質問

12月定例会



瀧尻 行雄 議員

## Q 集落維持と農福連携の充実を

邑南町の口羽川角集落は、8世帯12人、高齢化率100%の危機的集落である。山あいの高原地帯で、かつて30世帯150人が養蚕、葉タバコを主要産業としていた。50年間出生率0という状況の中、10年で集落は消滅してしまうと感じながら日々暮らしている。

これは本町近隣地域での実態である。この現状を見て危機感はないか。

政府は、少子高齢化対策として「1億総活躍プラン」を打ち出した。女性や高齢者の活躍、障がい者の就労支援に期待している。  
町内の福祉施設では農作業と連携した就業支援が行われており、障がい者の就労支援には特に力を入れるべきと考える。

平成29年度、本町のU・Iターン定住者は54名であった。これは定住対策が高く評価されている証である。今後も更なる温かい施策が展開されることを期待するが、町長の所見は。

## A 幸せを実感できるまちづくりを推進

町長 山崎 英樹

今進めたいことが2点ある。一つは、小さな拠点という考



農福連携によるイモの収穫作業

え。生活機能、生活交通、地域産業と連携し、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステム、これは着実に前進している。

## Q 冬季インフラ保全是

昨年の冬は、大雪や寒気によりいろいろなトラブルが発生した。

その反省から、防災体制や電気、水道、除雪等について、どこをどのように改善したのか。

## A 保身に努力

建設課長 和田 真一

水道については、異常水量の早期発見と施設の状態を常時監視できる中央監視装置の整備を進めている。また、水道メーター検診の回数を増やし、漏水の発見に努める。

除雪作業は、担い手の高齢化により人材が不足しているため、免許取得費用の助成などで担い手確保を進めている。

二つ目は、災害にいかに対応するかということだ。  
今年度から集落実態調査を行い、持続できる地域づくりに取り組む。災害に対し、強く立ち向かう自主防災の組織化も進めている。引き続き危機感を持ち対策していく。

次に、農福連携は、高齢者、子どもを含め地域の住民が役割を持ち、助け合いながら生きていく地域社会の創造に繋がると思う。今後も農業担い手支援センターを中心に、関係機関と情報共有しながら農福連携を進めていく。

本町への定住者増加は、県下でもトップランナーとして位置づけられている。農業と移住とは密接な関係がある。県の農業経営課・農林振興センターと本町の産業振興課・地域振興課とが定期的に情報交換し、農業の担い手が生まれ、移住と結びつく施策を展開していく。

本町で暮らすことが幸せと実感できるまちづくりを進めたい。